主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想＜中・美術＞

特別研修員　美術　中林　真紀子（中学校教諭）

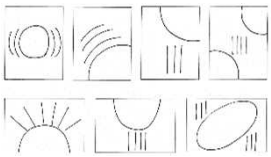
題材名　『心を詩画で表現しよう』（第１学年）　全６時間計画

題材のねらい

自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などから主題を感じ取ったり、画面構成や表し方を工夫して詩画に表したりできるようにする。

題材構想の意図

本題材では、「出会う」過程では郷土の作家である星野富弘氏の詩画を対象とした鑑賞の学習を行うことで制作への関心を高めます。「試す・広げる」過程では、モチーフとの思い出や愛着などについての主題を明確にさせ画面構成について考えさせます。「表す」過程では、モチーフの傷や汚れなども思い出の一部としてありのままを見つめさせ、鉛筆とアクリル絵の具による制作を通して作品全体の調和を意識して表現させます。「振り返る」過程では、相互鑑賞会で自他の作品のよさを味わわせ、物から広がる人とのつながりや思い出に想いをはせ、感謝の気持ちを抱いたり、物を大切にして新たな夢をもったりする心情を養うよう構成します。

過程	主な学習活動	
出会う（1）	**1．制作への見通しをもつ** ○星野富弘氏の作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。 ○自分にとって大切な物を細部まで観察して詩画に表すことを知り、題材のめあてをつかむ。 題材のめあて　モチーフをよく観察し、画面構成を工夫して、大切な思いを表現しよう	**題材への興味・関心をもたせる** 星野富弘氏の詩「生きているから」と「ぺんぺん草」を引用し、作者の作品に込めた気持ちを生徒に投げ掛け、感じたことを発表し合う活動を通して、題材への興味・関心と学習に対する意欲をもたせる。 **題材のめあてをつかませる** 教師が元気を取り戻せる物についてのエピソードを話し、生徒にとって大切な物、元気を与えてくれる物は何かを問い掛け、題材の制作へと方向付ける。
試す・広げる（1）	**2．発想・構想する** ○モチーフを選んだ理由を発表し合い、主題を生み出す。 ○参考作品を見て、画面構成の効果を話し合う。 スパイク。ずっと使っていて自分の体の一部のように思っていた物。次に新しいのを買うけれど忘れずにしたいと思う気持ち。 ＜画面構成を図式化した資料＞ 	**表したい表現の思いを明確にさせる** 表したいことを明確にできるよう、モチーフに選んだ理由を主題とし、ワークシートに記述させる。 **効果的な構想をさせる** 参考作品と配置を図式化した資料を数パターン提示し、モチーフ・詩・余白の取り入れ方とバランスについて問い掛ける。
表す（3）	**3．構想を基に制作する** ○見る、描くを繰り返して鉛筆でモチーフを描く。 ○アクリル絵の具の扱い方を工夫して着彩する。 ○全体のバランスを考え、大きさや絵の具の濃さを工夫して詩をかき足す。 	**表現方法を工夫させる** 用具の特性を生かし、効果的な表し方を考えられるよう、絵の具に混ぜる水の量を変えて彩色した参考作品を提示し、印象の違いを話し合わせる。 視野を広げて表し方を広げたり深めたりできるよう、細部まで見て描いて主題を表現している制作途中の作品を鑑賞する活動を設定する。 **個別指導を充実させ主題にせまる** 思いに適した鉛筆の濃淡、その濃淡のよさが引き立つ着彩ができているか、個別に見て回り、表現意図に沿った表現ができるよう主題を意識するよう声掛けをする。
振り返る（1）	**4．作品を鑑賞し表現活動を振り返る** ○相互鑑賞会で作品とともに主題を発表し合い、互いのよさについて話し合う。 ○表現の過程で気付いたことやできるようになったことなどを視点として振り返る自己評価カードの記入をする。 	**表現の多様性を実感させる** 主題を表現するよさに気付き、達成感を味わえるよう、主題とモチーフの描き方や画面構成について意識したことを発表させる。 **題材の学びを自覚させる** 星野富弘美術館主催の公募展に全員の作品を、市内の作品展に代表作品数点を出品することにより、多くの方に見ていただく機会を設ける。

中学校　美術　＜試す・広げる過程＞

特別研修員　中林真紀子

指導例：『心を詩画で表現しよう』（第１学年　第２時）

１　自分の心情をモチーフに込めて詩画を制作することへの見通しをもち、題材のめあてをつかむ。

〇星野富弘氏の作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。

Ｓ：　お母さんに感謝したい気持ちを表したんだと思う。（ペンペン草を見て）

〇自分にとって大切な物を細かいところまで観察して詩画に表わすことを知り、題材のめあてをつかむ。

Ｓ：　スパイクは、ずっと使っていて自分の体の一部のように思っていた物だから、次に新しいのを買うけれど忘れずにいたいと思う気持ちを込めて描きたい。

Ｓ：　ラグビーを始めて仲間を大切にすること、努力の大切さなどが分かったからラグビーボールにそういう気持ちを込めて表現したい。

本時のめあて　主題を生み出し、効果的な画面構成を考えよう

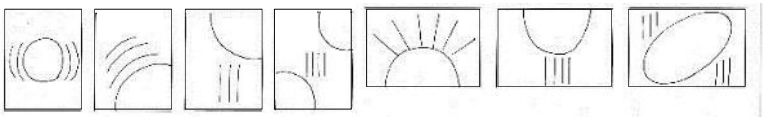
２　主題を明確に生み出し、画面構成を考える。

〇モチーフとして選んだ理由を発表し合い、主題を生み出す。

〇富弘氏の詩画作品、先輩の作品、図式化した資料を鑑賞し、モチーフ・詩・余白のそれぞれの位置の確認をし、構図の取り方を話し合う。

《先輩の詩画作品》

《図式化した資料》



〇モチーフと詩を簡単な図で表し、いくつかのパターンを示すことで主題に合った表現を考える

Ｓ：　同じラケットでも全体と一部を入れる場合によって見え方が違うな。

Ｓ：　モチーフの入れ方と詩を書く場所でバランスをとるんだな。

Ｓ：　詩が広がるように書かれているからボールが飛ぶ感じで面白いな。

３　構想を基に制作をする。

「見る」「描く」「消す」を繰り返す生徒

４　本時のまとめ・振り返りをする。

〇制作記録カードに今日の自己評価をする。

・先輩の作品を少し見て参考にできた。

・シューズをこんなにしっかり見たことがないので、新しい発見ができた。

指導のポイント

鑑賞活動を設定し学ぶ意義を見いださせる

〇星野富弘氏の詩「生きているから」と「ペンペン草」を引用し、作者はどのような思いを込めてモチーフを選び描いたのか、詩を手掛かりに話し合わせる。

〇星野富弘氏のように自分の心情を詩画に表そうと提案する。

言語化により主題を明確化させる

〇教師が元気を取り戻せる物についてのエピソードを話し、自分にとって大切な物、元気を与えてくれる物は何かを問い掛け、題材の制作へと方向付ける。

〇選んだ理由を問い掛け、ワークシートに記入させる。

参考作品を見せて画面構成の効果を話し合わせる

〇効果的な構想ができるよう、参考作品と配置を図式化した資料を数パターン提示し、モチーフ・詩・余白の取り入れ方とバランスについて問い掛ける。

モチーフをじっくり見つめさせる

〇主題を大切にし、モチーフをよく見つめ傷や汚れなどが付いた時のエピソードを思い出し、場面を振り返りながら描くように伝え、描く時間よりモチーフを観察する時間を多くするように伝える。

今日の振り返りをする

〇今日の活動のめあてが達成できたか、振り返らせることで全体の活動の見通しを立てたり完成までのイメージをもたせたりする。

中学校　美術　＜表す過程＞

特別研修員　中林真紀子

指導例：『心を詩画で表現しよう』（第１学年　第４時）

１　本時のめあてをつかむ。

〇前時までの友達の作例を見ながら主題を確かめ、本時のめあてをつかむ。

本時のめあて　モチーフとの思い出に思いを巡らせ、鉛筆の線や陰影をより生かし、特徴を捉えて表現しよう

二つの作品を比較鑑賞させ、鉛筆の濃さを生かしている着色の仕方は水の量を多くしていることを視覚的に理解させる。

＜絵の具が濃い作品＞　＜絵の具の濃さが適切な作品＞

＜鉛筆のみ＞　＜水が少ない例＞　＜水が適切な例＞

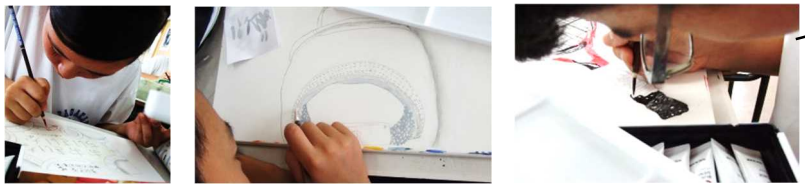
２　表現活動に取り組む。

〇鉛筆の線や陰影をより生かしたものとそうではない２種類の色遣いがされている例及び詩画作品を比較鑑賞し、モチーフを表すために効果的な絵の具の濃さを話し合う。

〇鉛筆の陰影をより生かすため、水の量を多くしモチーフの面積に応じて、使う筆の太さを使い分けて着彩する。

◇広い面積　⇒　平筆　　◇細かく狭い部分　⇒　面相筆

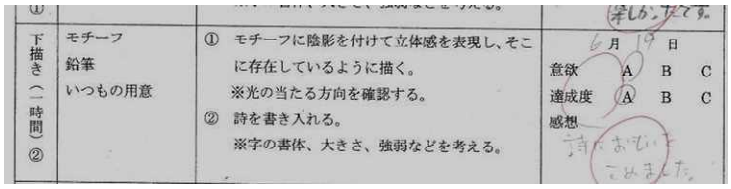
〇アクリル絵の具の扱い方を工夫して着彩する。



《制作風景》

３　本時のまとめと振り返りをする。

〇本時のめあてが達成できたか、題材全体の計画と照らし合わせつつ、本時の制作進度と次時の課題について振り返りを行い、制作記録表に記録する。



下描き（二時間）①	モチーフ 鉛筆 いつもの用意	① モチーフに陰影を付けて立体感を表現し、そこに存在しているように描く。 ※光の当たる方向を確認する。 ② 詩を書き入れる。 ※字の書体、大きさ、強弱などを考える。	楽しかったです。 6月19日 意欲　A　B　C 達成度　A　B　C 感想 詩がおもいうかべました。

～生徒の感想より～

Ｓ：自分が思う濃さで色塗りができました。

Ｓ：ピンポン球の影をつけるのを頑張りました。心に残るような詩画をつくりたいです。

Ｓ：気持ちを込めて陰影を付けて優しい印象に仕上げることができました。

指導のポイント

視点を明確にし、陰影の付け方を練習させる

〇用具の特性を生かし、効果的な表わし方を考えられるよう、絵の具に混ぜる水の量を変えて彩色した参考作品を提示し、印象の違いを話し合わせる。

〇モチーフが立体的に見える着色の仕方をつかめるように、着色の前段階で円に陰影を付けて球にする練習プリントに取り組ませる。

表現の見直しに結び付ける鑑賞活動を設定する

〇視野を広げて表し方を広げたり深めたりできるよう、細部まで見て描いて主題を表現している制作途中の作品を鑑賞する活動を設定する。

自己決定を促す個別指導を行う

〇生徒が主題に照らして自分で表し方を工夫できるよう、水の濃さが適切な作品例を黒板に掲示し、プロジェクターで鉛筆の線が生かされている水の量で着色されている画像を見せつつ、表現したい絵の具の濃さになっているか確かめながら制作を進めるように促す。

今日の振り返りをする

〇今日の活動のめあてが達成できたか、振り返らせることで全体の活動の見通しを立てつつ完成までのイメージをもたせる。

中学校　美術　＜振り返る過程＞

特別研修員　中林真紀子

指導例：『心を詩画で表現しよう』（第１学年　第６時）

１　本時のめあてをつかむ。

○前時までに書いた自己評価カード及び作品を用意し、鑑賞のポイントを知る。

本時のめあて　作品を見合い、描き方や配置を工夫して自分の思いを表現する詩画のよさを味わおう

２　相互鑑賞会をする。

○主題を表現するよさに気付き、達成感を味わえるよう、主題とモチーフの描き方や画面構成について意識したことを発表する。

《発表会の仕方》

発表者：モチーフ、作品、自己評価カードを準備して、題名、表現した感想、質問の回答を述べる。

鑑賞者：「絵・詩・余白のバランスがよい作品」「モチーフの形をよくとらえた作品」「心に響いた感動的な作品」を制作した作品を選び、付箋紙に同じ班員のよいところや工夫したところを書き留める。

《発表会の様子》

《生徒の詩画作品》

Ｓ：汚れた感じが墨などで表せているね。あえて全体ではなく一部を描いているところがよかったです！

３　作品を鑑賞し、よさや美しさを認め合う。

４　本時のまとめと振り返りをする。

○相互鑑賞会を行った感想及び、付箋紙をもらった感想を発表し合う。

Ｓ：友達のよいところや自分の気付かなかったところが分かったからとてもよかったです。

Ｓ：自分の思いが描けてよかったです。自信が付きました。

Ｓ：色々な人の大切なものを知ることができた。私も感謝を伝えられた。

Ｓ：みんなに絵を描いたコメントを渡し、喜んでもらえたのでよかった。

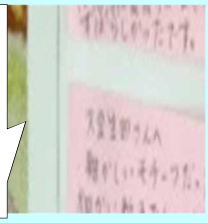
指導のポイント

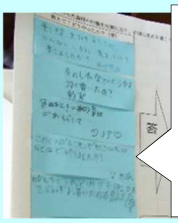
鑑賞の手順によって全員が活躍できるようにする

○全員がよさや質問を書いた付箋紙をもらい、自身の制作を振り返ることに生かせるよう、班員同士で交換する場を設ける。その際、相手及び自分の名前を書かせる。その後、班員以外でも付箋紙に書いてもよいこととする。

相互鑑賞で付箋紙の色を生かす

ピンクの付箋紙はよいところを書く用。書いた相手に渡す。





青の付箋紙は質問を書く。左側にもらった質問を貼り、右側に回答を書く。

○発表者と鑑賞者のやり取りが生まれるよう、発表前に全員の完成作品を鑑賞し、思い付いた質問を付箋紙に書き留めさせる。そして、発表の中では、付箋紙に書き留めた質問をしたり答えたりするよう指示する。

詩画制作を生かす場を設ける

○完成した詩画作品は全て富弘美術館の詩画の公募展に出品したり、市の文化祭や図工・美術展に出品したりすることで、地域の方に見てもらう機会を増やす。

美　術　科　学　習　指　導　案

平成 30 年６月　第１学年　指導者　中林　真紀子

Ⅰ　題　材　名　　「心を詩画で表現しよう」（全６時間予定）

Ⅱ　学習指導要領上の位置付け

Ａ表現

（１）ア（ア）対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

（２）ア（ア）材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

（イ）材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

Ｂ鑑賞

（１）ア（ア）造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

［共通事項］

（１）ア　形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解

イ　全体のイメージや作風などで捉えることの理解

Ⅲ　目　　標

自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などから主題を感じ取ったり、画面構成や表し方を工夫して詩画に表したりできる。

Ⅳ　指導計画　※別紙参照

Ⅴ　本時の展開（２／６）

１　ねらい　モチーフを選んだ理由を記述し画面構成を工夫してスケッチする活動を通して、主題を生み出し、モチーフ、詩、余白のバランスを考えられるようにする。

２　展開

学習活動（分）　　○：留意点　　点線囲：評価　　**☆：振り返りの子供の意識**
１　前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（15分） ○星野富弘氏の詩「生きているから」と「ぺんぺん草」を引用し、作者の作品に込めた気持ちを生徒へ問い掛ける。 本時のめあて　モチーフをよく観察し、画面構成を工夫して、大切な思い出を表現しよう
２　主題を生み出し、画面構成を考え簡単なスケッチに表す。（30分） ○モチーフを選んだ理由をワークシートに記述し、互いに紹介し合うよう促す。 ○モチーフ、詩、余白の視点から構図の異なる参考作品と図式化した資料を次の順に提示する。 ・星野富弘氏の詩画作品 ・先輩の詩画作品 モチーフの種類別に生徒作品を例示しながら構図により見え方や印象が違うことを伝える。 ・図式化した資料 画面構成がしやすいようにモチーフ、詩、余白の位置関係を捉えさせる。 ○参考作品と資料を見比べ、画面構成の違いによって、どのような感じの違いがあるか、作者の意図は何かを発表するよう促す。 ○感じ取った感じの違いや作者の意図を踏まえ、主題を効果的に表す画面構成を考え、画面に簡単なスケッチとして当たりを付ける線で描くよう指示する。 モチーフを選んだ理由を主題として記述するとともに、モチーフや詩、余白のバランスを考えて構図を決めている。＜スケッチ（２）＞
３　本時のまとめと振り返りをする。（５分） ○今日の活動のめあてが達成できたか、自己評価カードを用いて振り返るよう促す。 **☆モチーフと詩の配置でバランスをとるんだな。グローブには努力がつまっているよ。その思いを込めて表現したいな。**

Ⅴ　本時の展開（４／６）

１　ねらい　モチーフの存在感や詩を引き立たせて着彩する活動を通して、色彩の濃淡と作品全体の調和を意識してアクリル絵の具で着彩できるようにする。

２　展開

学習活動（分）　　○：留意点　　点線囲：評価　　☆：振り返りの子供の意識

１　本時のめあてをつかむ。（５分）

○一人一人の主題を再確認させ、モチーフを改めて見つめるよう促す。

○鉛筆の線や陰影をより生かした適切な色と濃い色の２種類の色遣いがされている詩画作品を提示し、色の濃淡による効果について感じたこと発表するよう促す。

本時のめあて　モチーフとの思い出に思いを巡らせ、鉛筆の線や陰影をより生かし、特徴を捉えて表現しよう

２　表現活動に取り組む。（40分）

○拡大投影機を使い、水の量の調節の仕方や混色について演示し、試し塗りの方法を説明する。

○既習のにじみやぼかしの技法について確認し、意図に応じて積極的に活用するよう助言する。

○狭い部分は面相筆、広い部分は彩色筆で塗るなど、面積に応じた筆の種類を使い分けするよう助言する。

○水の量や混色の仕方を工夫し、対象をよく見て着彩するよう促す。

○生徒の主題と表現意図を確認した上で、必要に応じて、水の量の調節や混色、表し方について助言したり、具体的によさを称賛したりする。

鉛筆の線や陰影を生かし、にじみやぼかしも効果的に用いて淡彩で着色している。

＜作品（２）＞

３　本時のまとめと振り返りをする。（５分）

○鉛筆の線や陰影をより生かして主題を表現できたかを視点に、自己評価カードに振り返りを記述するよう促す。

☆自分のイメージが色と形で表現できた。詩の墨入れも楽しみだな。

Ⅴ　本時の展開（６／６）

１　ねらい　　自己評価カードを記入し、相互鑑賞会で作品を発表し合う活動を通して、自他の作品のよさを味わわせ、構図、調和の視点から自己の作品のよさを再認識できるようにする。

２　展開

学習活動（分）　　○：留意点　　点線囲：評価　　☆：振り返りの子供の意識
１　本時のめあてをつかむ。（５分） ○表したい気持ちに対する作品の出来映えや制作過程を振り返った自己評価カードを見直させる。 本時のめあて 作品を見合い、描き方や配置を工夫して自分の思いを表現する詩画のよさを味わおう
２　相互鑑賞会をする。（40分） ○相互鑑賞会について、次のように指示する。 ・発表者はモチーフ、作品、自己評価カードを準備し、制作の感想と質問の回答を述べる。 ・鑑賞者は「モチーフ・詩・余白のバランス」と「モチーフの特徴」を視点によさが見られた作品、「心に響いた感動的な詩」を制作した同じ班の友達を選び、付箋紙に作品のよいところや工夫したところを書き留める。 ○付箋紙をもらわない生徒がいないように同じ班の友達には必ず書くようにさせ、相手の名前と自分の名前を書かせる。 ○「モチーフ・詩・余白のバランス」と「モチーフの特徴」を視点にどのようなよさが感じられるかを問い掛けたり、具体的に記述できていることを称賛したりする。 友達の作品のよさや工夫点に気付き、構図の取り方や色彩から醸し出される美しさを感じ取り、それを文字で表すことができる。＜ワークシート（４）＞ ○互いの作品を自由に見て回るよう指示する。 ○自分の思いを表現する詩画のよさを味わうことができたか、相互鑑賞会を行った感想及び、付箋紙をもらった感想を発表し合うよう促す。
３　題材のまとめと振り返りをする。（５分） ○詩画の鑑賞や制作を通して、感じたことや分かったことは何か問い掛け、発表を促す。 **☆絵を描くことで物や人の大切さが分かったよ。細かく見て何を表現したいのかを考えながら描くことが大切なんだね。**

指導計画　　美術科　第１学年　題材名「心を詩画で表現しよう」（全６時間計画）

目標	自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などから主題を感じ取ったり、画面構成や表し方を工夫して詩画に表したりできる。			
評価規準	(1) 自分の思いを投影して身の回りの事物を表現することに関心をもち、詩画制作に意欲的に取り組もうとしている。（美術への関心・意欲・態度） (2) 自分との関わりで身の回りの事物を捉え、身の回りの事物に自分の思いを投影して主題を生み出し、モチーフと詩、余白のバランスを工夫して調和のとれた表現を構想している。（発想や構想の能力） (3) モチーフの特徴を捉え、鉛筆による形や陰影の描き方、絵の具による色彩の濃淡や混色を工夫できる。（創造的な技能） (4) 自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などから主題を感じ取ることができる。（鑑賞の能力）			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り（意識）	◇評価項目 〈方法（観点）〉
出会う	1	○富弘さんはどのような思いを込めてモチーフを選び描いたのか、詩を手掛かりに話し合う活動を通して、制作への思いを膨らませられるようにする。 題材のめあて モチーフをよく観察し、画面構成を工夫して、大切な思いを表現しよう	☆草花の力強い感じを表したかったんだな。上に伸びようとする思いが感じられるな。	◇モチーフに投影させた思いを、形や色彩などに結び付けて具体的に記述している。 ＜発言（4）＞
試す・広げる	1	○モチーフを選んだ理由を記述し画面構成を工夫してスケッチする活動を通して、主題を生み出し、モチーフ、詩、余白のバランスを考えられるようにする。 本時のめあて 主題を生み出し、効果的な画面構成を考えよう	☆野球を通して、努力の大切さなどが分かった。その思いを込めて詩画にしたいと思う。 ☆モチーフと詩の配置でバランスをとるんだな。細かく観察して、思いを表現したいな。	◇モチーフを選んだ理由を主題として記述するとともに、モチーフや詩、余白のバランスを考えて構図を決めている。 ＜スケッチ（2）＞
表す	1	○モチーフの傷や汚れ、破れなども思い出の一部としてありのままを見つめ、鉛筆で描く活動を通して、モチーフの形や陰影の付け方を工夫して表現できるようにする。 本時のめあて モチーフとの思い出に思いを巡らせ、形や陰影の特徴を捉えて鉛筆で表現しよう	☆そっくりに描くのではなく、細かく見て何を表現したいのかを考えながら描くことが大切なんだな。モチーフがそこに存在しているように描くには陰影を付けるといいな。	◇モチーフの特徴を捉え、細かい部分もよく観察して自分の想いに適した線や明暗で描いている。　＜作品（3）＞
	2	○モチーフの存在感や詩を引き立たせて着彩する活動を通して、色彩の濃淡と作品全体の調和を意識してアクリル絵の具で着彩できるようにする。 本時のめあて モチーフをよく観察し、主題を効果的に表す絵の具の塗り方を工夫しよう	☆鉛筆を生かして淡く色塗りをするといいな。グローブの傷や汚れを大切にして、薄めの色で塗ったよ。感謝の気持ちを込めて制作できたぞ。	◇鉛筆の線や陰影を生かし、にじみやぼかしも効果的に用いて淡彩で着色している。 ＜作品（3）＞
振り返る	1	○自己評価カードを記入し、相互鑑賞会で作品を発表し合う活動を通して、自他の作品のよさを味わわせ、構図、調和の視点から自己の作品のよさを再認識できるようにする。 本時のめあて 作品を見合い、描き方や配置を工夫して自分の思いを表現する詩画のよさを味わおう	☆そっくりに描くのではなく、細かく見て何を表現したいのかを考えながら描くことが大切なんだな。	◇友達の作品のよさや工夫点に気付き、構図の取り方や色彩から醸し出される美しさを感じ取り、それを文字で表すことができる。 ＜ワークシート（4）＞